地域文化の伝承のための表現手法

－潮汕（チョウセン）地域文化の復興－

The Inheritance of Regional Culture Expression for the Revival of the Chaoshan Culture

■　柯丹婷　Danting KE

愛知県立芸術大学大学院　　柴崎幸次研究室

Aichi University of the Arts

■　キーワード：地域文化、イラスト

はじめに

現在の中国は経済発展と技術革新に伴い、地域文化の多様性が年々失われている。地域文化の特徴である伝統的な様式を安易に簡略化し、商業化することは、地域の活力と文化的伝統を失うおそれがある。また、現状では、高齢者だけが伝統文化を引き継ぎ守っている状況である。したがって地域文化を継承するためには、後継者の育成が必要である。そのためには、若者が親しみやすい表現や提示方法をデザインすることによって地域の文化を知り、生活の中に取り入れることが文化の保護と伝承が可能となるのではないか。

本研究は、中国広東省潮汕（チョウセン）地域（図1）の伝統的な生活文化の継承と復興を目的とする。潮汕の独特な地域文化としての豊かな神明文化・風俗習慣を、映像やイラストレーションを組み合わせた多様な手法で表現する。

図１　潮汕地域の位置

潮汕は、中原文化に属し、中国史において最も中心的で古い文化的系譜にあたる。近代以前は中央の政治から離れていたため、文化の形式が壊れることなく保存されてきた。

近代に入ると、地方政府による地域経済の発展のために三つの市（汕頭（スワトウ）市、潮州（チョウシュウ）市、揭陽（ケツヨウ）市）に分けられたが、このことでさらに多彩な風俗を生み出している。

第１章　潮汕地域文化について

1.1.潮汕地域文化の形成

潮汕地域文化の形成は、六千年前の秦時代に遡ることができる[註1]。全体の発展の経過を要約すると、秦・漢時代に起源し、唐・宋時代に発展し、明・清時代に成熟したといえる。

潮汕地域に流入した移民の構成主体は、秦軍である。大規模な移民の流入時期は、東漢末から西晋末までの間とされる。「衣冠南渡、八姓入閩」と言われるように、中国の西晋懐帝の永嘉の時期 308 年、中原地区の人民は戦乱を避けるために今の福建省に大規模に移住した。秦漢以後、漢文化は嶺東（広東省）に広がる。その後の三回の大規模な移民は、それぞれ唐末、宋末、元明で発生した。中でも南宋末と元末明初の二つの時期の潮汕へ入る移動が大きく、直接的に潮州府（当時の政治中心）の行政区画の変革を促した。このことが、潮汕の文化系譜の形成に対して根本的な役割を果たすことになる。

潮汕文化は、潮汕地域内だけでなく、海外の複数の地域にも影響を与えた。唐・宋時代に一定の規模の海外貿易があったことで、明になると戦争と海禁（明朝政府の海事に対する管轄）が原因で移民がさらに盛んになった。明代嘉靖万暦の間、潮州の海寇（かいこう）集団は政府の強制により、多くの人々が東南アジアを起点として海外に流出した商売を開拓していく。また地元の文化を異国に持ち込んで発展させ、伝承されていった。そのような経緯から、潮汕の地域文化は、中国の近代の政治変革においても、他の地域文化より相対的によく残っているのである[註2]。

1.2.潮汕地域文化の伝承の必要性

現在の潮汕文化は、広東省内の三大文化（広府文化、潮汕文化、客家文化）の一つとして、中原文化の言語、民俗、

民芸などが保存されている。文化の多様性と特色のある地域性は、長い間潮汕の民衆と共に発展してきた。

しかし、伝統的な地域文化は新しい文化に直面することで徐々に失われ、冠婚葬祭、多数の民芸、民俗行事などは、手間もかかり儀式が煩雑なので、絶えず簡略化されて後に途絶えていくことになる。伝統的な祝日に対する若者の儀式感が薄らいでいるのだ。人々の社交距離を縮めることができる民俗活動も年々減少している。伝統文化の伝承には大衆の支持が必要であり、単に口頭で訴えるだけでは効果がない。そのため、本研究では、潮汕地域の風俗文化、民俗行事などを視覚化し、アドビ・フォトショップやイラストレーターなどのソフトを使って絵画と効果の加工を行い、その魅力を再発掘して、発信していく。

2. イラストレーションのキャラクターの設定

地域文化などの理解しにくい情報を用いて再現するうえで、視聴者に親しみを持たせるために、日本の絵巻物の表現手法を参照した。「安安」(アンアン)」というキャラクターをデザインし、このキャラクターの視点と成長経歴から、潮汕地域の風俗行事、冠婚葬祭などの文化的背景をイラストであらわす(図2)。

図２　キャラクターの成長視点

安安の人生を、生・老・死の三つの過程として設定し、人生の過程を描いていく。具体的には、キャラクターの視点から日記などの形式で、地域文化を紹介するイラストを制作する。この中で地域の人、風景、文化、物の関係の紹介を行い、作画の内容をより豊かにする。さらに、イラストの年代設定と背景に基づいて人物の成長を描き、安安が 15 歳までに経験した地域文化情報を紹介した(表1)。

場所：汕頭市　　**誕生年：**1968年　　**名前：**安安

誕生（子供のころ、成長期）
出産式：子供のために祈る、生まれた産湯につける、魚を食べさせる，親戚を祝福して贈り物をする、未来を予測するゲームをする。
お菓子（赤い桃）：潮汕を代表する定番の食べ物で、イベント、吉日などには神様のお供え物として食べる。
成人式：15歳になったら、七夕の日に特定の服を着て無事に成長できたことを感謝し神様に礼拝を捧げる。
中秋、十五夜、祭り：中秋の十五夜の満月の日に天に祀られた嫦娥という神様に祈り、木と瓦で塔の形を作って燃やす。
結婚(人生の転換期、出世)
結婚式：結婚する前に縁談を取りに行って、誕生日で相性がいいかを占う、お互いの家の風水を見て、最後にに贈り物をし、良い日を決めて結婚式を行う。
潮劇：中国南方戯曲の分派で、潮汕地域の特色を融合させた演劇である。
祭り、豚の競争：山村では一年に一回祖先の祭りをしている。村の各家庭はお供え物にしての豚を何列に並べて、誰が飼っている豚よりも肥えているということで、神様に対して最も誠意があり、大幸運が得るかどうかを判定する。
占いの杯：道具の一つは、日常のあれこれを占う。神託を受ける。
葬式(世界に別れを告げて)
葬式：人が亡くなるとまず死者の身だしなみを整える。家族は服を着替えて、順番に霊を守る。長男に地元の土地の神様に報告させたり、子供は最後に食べ物を箸で挟んで死者に与え、養育に感謝する。棺を閉じる前に、家族と最後の面会をするに感謝する。
冬至祭：二十四節気の冬至になると、もち米で作った団子を食べて祖先に供える。
時代の手紙：十九世紀から近代にかけて使われてきたお金付き書簡は、時代の辛さと潮汕の人々の海外での奮闘の歴史を反映している。
祖先を祭る、鳳凰が空に上がる：十二年に一度大きな祖先祭りが行われる。各家庭は手作りの鳳凰と灯籠を空に高く掲げる。

表１　キャラクターの設定条件と地域文化一覧

4. 地域文化：お菓子—赤い桃（モノ）

潮汕地域は、昔の中原地区の食習慣と調理方法がまだ残っている。「粿（げ）」（お米や植物の粉をひいて作ったお菓子）と呼ばれる、赤い桃のようなお菓子には多くの種類があり、祭りや祝日の縁起のよい定番の貢ぎ物である。この代表的なお菓子と製法をイラストで視覚化した（図 3）。

図３「赤い桃」

1.3. 地域文化：中秋夜（イベント、風俗）

十五夜の満月の日は嫦娥（じょうが）という神様を祀る。月を向いて故人をしのび、恋を祈る。また木と瓦で塔の形を作って燃える。いろんなイベントを開催する（図4）。

図４「中秋夜」

５．地域文化：六礼—結婚式（儀式、風俗）

六礼という結婚式は、中国の周代にさかのぼることができる。六つの礼法で、仲人から縁を求めて嫁をもらうまでの結婚過程を意味している。六礼を尽くしたら、生涯における重要な儀式が執り行れる(図5)。

図５「結婚式」

6. 地域文化:豚の競争(イベント、風俗)

毎年旧正月十八日に、自分で飼っている豚を祠堂に送って、豚の大きさを比べる風習がある。また競走に参加して、勝った人は一年中の幸運を得て、最後にお供え物を山の神に捧げる(図6)。

図６「豚の競争」

７．地域文化：手紙（モノ）

潮汕地域は海外の複数の地域にも影響を与えている。唐・宋時代から近代にまで、海に出て生計を立てる人は無数にいた。このような歴史のために、特殊な手紙と民間送金の信用機構を生んできたとされる。潮汕の人々の海外での奮闘の歴史と時代の辛さを反映していた(図7)。

図７「手紙」

８．地域文化：鳳上げ（イベント、風俗）

鳳上げは、十二年に一度しか開催されない大きなイベントである。村民は鳳凰を作って、同じ時間に天に向かって鳳凰を掛けて、提灯をつける。国を守ために犠牲になった将軍を記念する行事である(図8)。

図８「鳳を上げる」

9. 地域文化：葬式（儀式、風俗）

葬式は、中国の春秋戦国時代の礼制の中で発展してきた、冠婚葬祭の中で一番多くの複雑な要素を持つ儀式である。潮汕の人々は亡霊の影響力を信じているため、葬式は近代になっても中国古代の煩雑さが続いていた（図9）。

図９「葬式」

１０．地域文化：占いの杯（モノ）

潮汕では、道教や民間信仰を信奉し、神像や祖先の神位を祀ったりする家庭では、必ず占いの杯を持っている。線香を供えて礼拝した後、神様の指示を受ける。占いの杯は、道教において神の指示を求める道具である。杯を地面に投げて傾きを見て吉凶を判断し、神託を判断する。

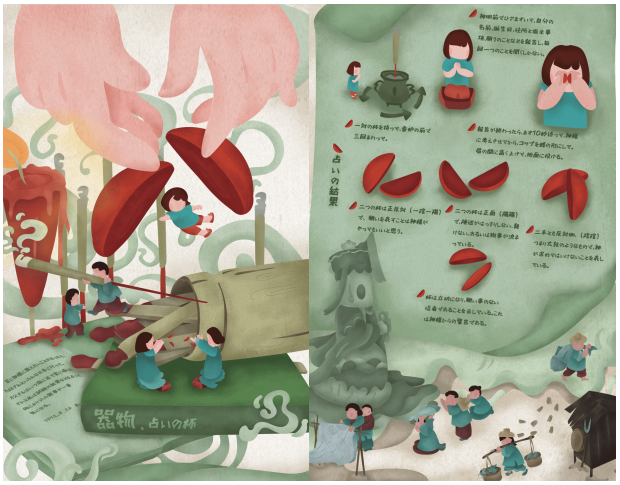

図１０「占いの杯」

2. 映像としたの表現手法

映像となるイラストは、絵巻として上下にスクロールするようにする。イラストとアニメーションの表現を組み合わせることで、画面をより生々とさせることができる。さらにバックグラウンドミュージックに潮汕楽器の要素を持つ曲を使うことにより、視覚的な雰囲気をさらに引き立たせる。動画の再生時間が長すぎるため、四つのパートに分けて展示することにし、視聴者にとって見たい部分をすばやく視聴できるようにした。キャラクターの人生を語るとともに、地域情報を完全に伝えることができるよう促し、安安の成長を見つめながら、視聴者に視覚、聴覚から没入感持たせるよう工夫した。潮汕文化の風土と文化を味わえる作品である。

おわりに

伝統的な地域文化が存続できるかは、人々の伝統を守る行動が必要なだけではない。様々な手法やメディアを活用することが重要である。今回の作品の表現を通じて、体験的に視聴者に地域文化の面白さを伝えることにヒントを得た。複数のメディア手段を用いて表現した上で、潮汕文化の情報を本当に広がることができるかどうか、視聴者にもっと手にいれるやすいかどうかなども考えなければならない。そのため、オンライン閲覧など通信手段を利用することは文化の伝承にとって役が立つである。潮汕文化の存在をより多くの人に知らせることが願っだ。

今後は、主に映像やアニメーション及びインタラクティブな表現の研究と制作を行う。潮汕地域の文化的特色をより直観的に伝えられるように研究を進めていきたい。

注、引用

1） 方烈文、『潮汕民俗大观』、スワトウ大学出版社、1996、1p-3p
2） 同上

他参考文献

緒方賢一『宋代の婚礼説について』立命館大学